

令和7年度 第4回

竜禅寺小学校 学校運営協議会

令和8年2月17日(火) 14:10~15:40  
(授業参観13:15~14:00)

浜松市立竜禅寺小学校

## 第4回 竜禅寺小学校運営協議会

令和8年2月17日(火) 14:10~15:40 会議室  
(授業参観 13:15~14:00)

開会 開催要件(委員の過半数の出席)確認 <司会：高須、記録：中村>

1 始めの言葉

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 議長の選出

5 前回会議録の確認

6 熟議 <議長：青島、記録：中村>

(1) 学校関係者評価

- ・学校評価の結果、成果と課題 <近藤>
- ・「竜禅寺小学校いじめ防止基本方針」について <坂口>

(2) 令和8年度 学校運営の基本方針について <校長>

(3) 学校運営協議会の自己評価 <平本>

7 報告 <司会：高須、記録：中村>

8 連絡 <司会：高須、記録：中村>

- ① 卒業証書授与式、R8年間計画(近藤)
- ② 夢育やらまいかCS加算分、地域・保護者ボランティア、R8協議会委員、R8協議会年間計画(平本)

9 終わりの言葉

閉会

## 学校運営協議会 名簿

### 学校運営協議会委員

会長	高須 道男(たかす みちお)
副会長	柳川 春彦(やながわ はるひこ)
委員	寺田 成一(てらだ しげかず)
委員	松本 直己(まつもと なおき)
委員	新井 和美(あらい かずよし)
委員	加藤 京子(かとう きょうこ)
委員	鈴木 宏幸(すずき ひろゆき)
委員	北井 実香(きたい みか)
委員	青島 早苗(あおしま さなえ)
委員	中村 哲也(なかむら てつや)

### 学校

校長	谷野 幸代(やの さちよ)
教頭	平本 智之(ひらもと ともゆき)
教務主任	近藤 仁志(こんどう ひとし)
CS担当教職員	鈴木 亮佑(すずき りょうすけ)
CSディレクター	中村 朝実(なかむら あさみ)
生徒指導主任	坂口 陽介(さかぐち ようすけ)

### 浜松市教育委員会

--	--

### オブサーバー

南部協働センター所長	加藤 晴康(かとう はるやす)
------------	-----------------

令和7年度 第3回 竜禅寺小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月18日（火）14時00分から15時20分まで
- 2 開催場所 竜禅寺小学校 各教室・会議室
- 3 出席委員 高須 道男、柳川 春彦、松本 直己、新井 和美  
加藤 京子、鈴木 宏幸、北井 実香、青島 早苗
- 4 欠席委員 寺田 成一、中村 哲也
- 5 オブザーバー 加藤 晴康（南部協働センター所長）
- 6 学 校 谷野 幸代（校長）、平本 智之（教頭）、近藤 仁志（教務主任）、  
中村 朝実（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 中村 朝実（CSディレクター）
- 9 議長の選出  
高須会長より、青島委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを  
了承した。

10 協議事項

- (1) 授業参観より職員や子供たちの様子について
- (2) 教育活動の充実について～子供たちの言語環境～

11 会議記録

司会より委員総数10名のうち8名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 授業参観より職員や子供たちの様子について

- ・終わりの挨拶がしっかりできている。授業の様子を見て、先生の表情が良いと感じた。

(松本委員)

- ・タブレットを使いながら授業を行っていた。差ができないように教えていくことが難しいと思う。たつのご学級では、段ボールを使ってものづくりをしていた。今の時代AIで何でも解決するが、アナログなことも大切にしていきたい。（新井委員）

- ・5年の手紙の授業はとても良い授業だったが、学習に積極的でない児童もいたのが残念であった。授業の内容はとてもすばらしかった。

6年生は、楽しそうに授業をしていてとてもよかった。学ぶ基礎がしっかり身に付いている。

2年生は、九九づくりをしていた。とても一生懸命取り組んでいて好感が持てた。とても元気いっぱいだった。（高須委員）

- ・たつのご学級の算数（とても難しい内容）は、スムーズに授業が進んでいた。

前回の参観会の理科の実験について、安全面への配慮がとてもされていたが、実験のとき座ってやってもよいという指導があった。どうなのか。（柳川委員）

- ・ かげが流行している学校もあるが、みんな元気に過ごせているので良い。算数の考え方を問うことについては、しっかりできている。5年の「手紙」の授業については、年齢や家庭環境によっても感じ方が違ってくる。5年生が適切だったのか。もっと下の学年でやってみても良いのではないか。真剣に人の話を聞くことが必要。(鈴木委員)
- ・ 同じ学年でもクラスの雰囲気が違うと感じた。先生の話し方、声の大きさやスピードを発達段階に応じて工夫している。先生の負担が大きいと感じた。給食支援などお手伝いできることがあれば、協力できるとよい。(北井委員)

## (2) 教育活動の充実について～子供たちの言語環境～

教頭より子供たちの言語環境(言葉遣いを丁寧にしていきたい)について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 家庭でしっかり注意することが大事。さくら連絡網で呼び掛けると良い。配信されたものは見逃さないと思う(北井委員)
- ・ 子供の教育が学校任せになっている。親に原因があることが多いのではない。言っても聞かない。学校の先生に負担がかかっている。(新井委員)
- ・ テレビやネットで言葉が氾濫している。「超」「やべえ」など、すぐに使って常用語のようになってきている。親は注意するけれどきかない。(松本委員)
- ・ テレビでは、相手を誹謗中傷する言葉遣いが溢れている。生活を取り巻く環境に刺激がありすぎる。使い分けが必要。(鈴木委員)
- ・ どんな言葉がいけないのか。クラスごとに言葉を監視するような委員をつくり、一人一人が周りの言葉を気にして生活すると改善される可能性がある。当然教師のサポートが必要。いじめにつながる可能性もあるので、どうやっていくかは難しいところがある。(高須委員)
- ・ メディアの影響はとても大きい。相手をリスペクトすることは、大切にしていきたい。試験的に一部の学年でやっていけたらいい。ケンカになったときに周りの子がどう対応するのは見てみたい。サッカーでは、よく髪の毛をひっぱるようなケンカがあった。いつの間にか、仲直りして練習にも参加していた。言語環境はすぐには改善されないが、相手をリスペクトする活動や縦割り活動を充実していき、少しずつでも減らしていくことが大事。(高須委員)
- ・ 関西では、「アホ」は日常的につかっている。方言などその地方の言葉がある。(鈴木委員)
- ・ 言葉の持つ強さと弱さを知らないといけない。言葉を出し合ってグループ討議できたらいい。言葉の持つ怖さなども討議していったらいい。親が知らないうちに使っているから子供も使う。(松本委員)
- ・ Lineなどで、顔が見えないから強い口調で言葉を発していることがある。発した言葉を悪いと子供は思っていない。(新井委員)
- ・ 児童の名前の呼び方「～さん」を繰り返すことで定着されてきた。言葉遣

いについては、子供から「これはやめたいな」という言葉を決めさせて、やってみたらかなりのことはできるような気がする。(柳川委員)

- ・言葉を悪いと思ってない。テレビの影響が多い。お笑い芸人等の影響で悪い言葉を使っている。あと YouTube などの影響が大きい。(新井委員)
- ・「うざい」「きもい」について、女子同士が言い合うと嫌な雰囲気が出る。(高須委員)
- ・障害者をバカにするような言葉を発することがあり良くない。(青島委員)
- ・障害に対しては、明らかな差別用語である。相手へのリスペクトが欠けている。(高須委員)

#### 連絡・報告事項

- ・交通安全について
- ・なわとびカードについて
- ・昼休みの過ごし方

次回の学校運営協議会は令和8年2月17日(火)14時10分から会議室にて開催する旨の報告があった。

# 令和7年度 浜松市立竜禅寺小学校 学校評価報告

## 1 自己評価

### (1) アンケート結果

令和7年度 振り返りアンケート結果 数値は、いつもできた・ときどきできたの割合		児童						保護者	教職員	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童全体	保護者	教職員
竜の子宣言	進んで気持ちの良い挨拶をします	91.5	90.4	89.6	98.1	97.8	92.7	93.4	88.0	88.2
	目標に向かって粘り強く取り組みます	95.8	88.7	93.8	96.2	100.0	100.0	95.8	88.0	100.0
	思いやりの心を持って行動します	97.9	90.3	97.9	96.2	100.0	100.0	97.1	95.0	94.4
	安全に気を付けて元気に生活します	97.9	91.9	100.0	96.2	97.7	95.2	96.5	95.0	55.5
平均		95.8	90.3	95.3	96.7	98.9	97.0	95.7	91.5	84.5

### (2) 考察

児童の数値も保護者の数値も、平均90%以上達成していることが分かりました。これは、創立100周年を機に、これからの竜禅寺小学校の子供たちが、どんな子に育ってほしいかを児童・保護者・教職員で考え、みんなの想いを形にした「竜の子宣言」を核に教育活動を進めていきたことの成果であると推測されます。

教職員の数値は、平均84%の達成状況でした。授業や行事を通して、竜の子宣言を核とした教育活動を意識して行うことができたことが達成率に表れていると推測されます。「安全に気を付けて元気に生活します」については、児童・保護者と教職員の捉え方に大きな開きがありました。定期的に学校の決まりや運動場の使い方、交通ルールを確認することについては一定の効果はありましたが、学校全体の「規律」の部分の確認が改めて必要であると考えます。

### (3) 今後の教育活動について

学校教育目標である「夢を持ち ともに輝く」を実現するために、令和8年度もキャリア教育の考えを土台としながら、創立100周年を機に、これからの竜禅寺小学校の子供たちが、どんな子に育ってほしいかを児童・保護者・教職員で考え、みんなの想いを形にした「竜の子宣言」(下記の表)を核に教育活動を進めていきます。

#### 【竜の子宣言】

- ・進んで気持ちの良い挨拶をします
- ・目標に向かって粘り強く取り組みます
- ・思いやりの心を持って行動します
- ・安全に気を付けて元気に生活します

### (4) いじめのない学級・学校づくりについて

アンケート設問	保護者	教職員
学校は、いじめのない学校や学級、環境づくりに取り組んでいましたか。	93%	100%

4月のキャリア・カウンセリングにおいて、「竜禅寺小いじめ防止基本方針」の内容に触れ、学校の方針を全保護者に直接説明したことや、ブログを通して学校の様子を毎日伝えたことがいじめのない学校や学級、環境づくりに有効であったと考えます。

またICT機器(スマートフォンやタブレット、ゲーム機等)を介し、SNS上での書き込みや画像等の掲載に関するトラブルが、いじめにつながることも考えられるため、今年度は、月に1回、全学年で情報モラルについて学ぶ活動を取り入れたり、高学年では参観会のときに情報モラル講座を実施したりしました。今後も、学校での活動の様子を具体的に保護者に伝えていきます。

## 2 学校関係者評価

2月17日（火）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果及び考察について委員に報告し、以下のような意見をいただきました。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

## 3 学校関係者評価を受けて

「第4次浜松市教育総合計画」

＜基本理念＞ 描く夢や未来の実現

☆主体性 ☆多様性・包摂性 ☆信頼・協働

南部中学校区目指す子供像

「思いやりを持ち、きまりを守る子」

学校教育目標

## 夢を持ち ともに輝く

### 竜の子宣言

- ☆進んで気持ちの良い挨拶をします
- ☆目標に向かって粘り強く取り組みます
- ☆思いやりの心を持って行動します
- ☆安全に気を付けて元気に生活します

創立100周年  
を機に制定(R6)

### 確かな学力

まなび合う

### 豊かな心

みとめ合う

### 健やかな体

きたえ合う

#### 目標に向かって粘り強く取り組む子

＜重点＞

- ☆学びに向かう学級集団づくり
  - ・授業規律・「聴く」の徹底
- ☆個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
  - ・ICTの効果的な活用
- ☆カリキュラム・マネジメント
  - ・地域を生かした学習

#### 思いやりの心を持って行動する子

＜重点＞

- ☆「竜の子宣言」の確かな実践
- ☆温かな人間関係づくり
- ☆互いのよさの認め合い
  - ・ドラゴン賞の活用
- ☆縦割り活動
  - ・子供主体の異学年での交流

#### 安全に気を付けて元気に生活する子

＜重点＞

- ☆主体的・継続的な体力づくり
  - ・カードや場の設定を利用した基礎体力の向上
- ☆自他の命を大切にできる指導
  - ・災害・交通・防犯
- ☆生活習慣の見直しと改善

### キャリア教育

～子供たちに育てたい能力の育成指標（他者との関係の中で自分を高める竜禅寺の子）～

- ☆仲間をつくろう（人間関係形成・社会形成能力）
- ☆自分を高めよう（自己理解・自己管理能力）
- ☆問題を解決しよう（課題対応能力）
- ☆夢に近づこう（キャリアプランニング能力）

### 発達支援教育の理念に基づく子供理解・適切な支援

【目指す学校】

みんなの笑顔があふれる竜禅寺小

経営理念

ていねい あったか あんしん

＜教職員＞

- ☆主体的に学び続ける
- ☆子供に寄り添い、子供理解に努める
- ☆支え合い、高め合う「チーム竜禅寺」

連携  
協働

＜家庭・地域＞

- ☆深い愛情で、成長を支える家庭
- ☆温かく見守り、学びや育ちを支える地域

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）



1 学校教育に関する国や市の動向

(1) 学習指導要領から

- 社会に開かれた教育課程
- 育成すべき資質・能力の三つの柱
  - ・知識及び技能（何を理解しているか、何ができるか）
  - ・思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- カリキュラム・マネジメントの推進
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
  - ・「見方・考え方」を働かせることが重要
  - ・ICTの積極的な活用

【令和の日本型学校教育の構築】

○すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

◇「個別最適な学び」

指導の個別化

- ・支援が必要な子供により重点的な指導を行うなど効果的な指導を実現
- ・特性や学習進度に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- ・子供の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供

◇「協働的な学び」

- ・探究的な学習や体験活動を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら
- ・一人一人のよい点を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す

(2) 第4次浜松市教育総合計画 前期計画2/5

- 基本理念 「描く夢や未来の実現」  
コンセプト「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」
- 目指すこどもの姿（自分らしさ・他者との協働・自己調整）
  - ・自分らしさを大切にすることも
  - ・他者と協働し、主体的に行動できるこども
  - ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこども
- 3つの方針と5つの政策
  - 方針1 自分や浜松の未来を創る人づくり
    - 政策1 未来の創り手に求められる力の育成
    - 政策2 多様なニーズに対応した学びや支援の充実
  - 方針2 安全・安心で魅力ある環境づくり
    - 政策3 「はままつの先生」の魅力と資質能力の向上
    - 政策4 安全・安心に学べるより良い教育環境の整備
  - 方針3 こどもの学びや育ちを支える連携・協働
    - 政策5 多様な人材・主体との連携・協働

## 2 子供たちを取り巻く現状

### (1) 本校の歴史を振り返って

- 大正 14 年（1925 年）2 月、浜松南尋常高等小学校分教場として新設、2 か月後浜松龍禅寺尋常小学校として独立、一昨年度創立 100 周年を迎え、航空写真の撮影、運動場東側の壁面に壁画を作成した。また、令和 7 年 1 月 31 日には、創立 100 周年記念式典を実施した。
- 11 年間、国語科を窓口としての「学び合う学び」についての研究、授業公開を継続、平成 30 年度からは、キャリア教育に重点を置き、窓口教科を広げ「基礎的・汎用的能力から見た学びの在り方～つながりを意識した教育課程と学び合う学び～」をテーマに研究発表会を実施した。令和 2 年度より学校運営協議会を設置、コミュニティ・スクールとしてスタートした。令和 2 年度以降、カリキュラムマネジメントの在り方を基に年間を通して「基礎的・汎用的能力」・様々な活動と「主体的・対話的で深い学び」・教科指導それぞれの中でのつながり、活動と指導のつながりを探究しながら、付けたい力の 1 年間の押さえ、6 年間の系統等の研修を進めてきた。
  - 一昨年度から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながるよう、研修を進めてきた。

### (2) 子供たちの様子

- 明るく元気で素直、好奇心旺盛である。
- 自分で考えて行動する主体性に課題が見られる。
- 令和 7 年度 学校評価アンケート（2 学期）の児童の結果では、「竜の子宣言」の 4 つの項目について、90%以上の高評価であった。教職員アンケートの結果では、「目標に向かって粘り強く取り組みます」が 100%であった。一方で、「安全に気を付けて元気に生活します」いんについては、55.5%と低評価で、児童、保護者の捉えとは大きなずれがあった。授業、生活面での「規律」について、児童、教職員で共通理解を図り、規律ある生活が送れるようにしたい。また、本年度、来年度の 2 年間、南部中学校区が「あいさつ運動協力校」に指定された。保護者、地域を巻き込み、学校内外で気持ちのよい挨拶ができるよう力を入れていきたい。

### (3) 保護者の願い

- 令和 7 年度 学校評価アンケート（2 学期）の保護者の結果では、「思いやりの心を持って行動します」「安全に気を付けて元気に生活します」が 90%以上であった。「挨拶」「粘り強さ」についても 88%と高評価であった。今後も「竜の子宣言」という明確な指針を核に保護者と学校が一体となって子供を育てていく。

### (4) 南部中学校区の目指す子供の姿

「思いやりを持ち、きまりを守る子」

- ・令和 8・9 年度、南部中学校区 4 校は、「あいさつ運動協力校」に指定されたことを受け、学校内外で気持ちのよい挨拶をすることができるよう、力を入れていく。
- ・南部中学校では、授業規律、特に「聴く」の徹底を行っている。本校も同じ歩調で進めていく。

### 3 学校教育目標

## 夢を持ち ともに輝く

子供たち一人一人が、夢や希望（なりたい自分）を持って、仲間とよさを認め合ったり助け合ったりしながら、自分で考え、粘り強く挑戦してほしい。そして、その中で生きていくために必要な資質・能力を育むとともに、自分らしさを磨き、人の役に立っていることの喜び（自己有用感）を感じながら生きていくことができる人になってほしい。（主体的な共存共栄）

### 4 学校教育目標具現のための重点

#### (1) 「竜の子宣言」

令和6年度、創立100周年を機に「竜の子宣言」を制定した。「竜の子宣言」は、児童・保護者・教職員の意見を集約したもので、竜禅寺小学校児童のあるべき姿を表したものである。昨年度から、「竜の子宣言」を核として教育活動を進めている。本年度は、達成するための手立てを具体的に考え、さらに力を入れて取り組んでいく。また、本校独自に作成した「子供たちに育てたい育成指標」とも関連させて取り組む。

#### 【竜の子宣言】

- ☆ 進んで気持ちの良い挨拶をします
- ☆ 目標に向かって粘り強く取り組みます
- ☆ 思いやりの心をもって行動します
- ☆ 安全に気を付けて元気に生活します

<確かな学力（知）> ～まなび合う～

「目標に向かって粘り強く取り組む子」

○学びに向かう学級集団づくり

- ・授業規律・「聴く」の徹底
- ・自分の考えを持ち、進んで発表する
- ・友達の考えを認め、互いに高め合う

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・魅力ある単元構想
- ・教師が教える場面と子供に委ねる場面（選択・自己決定）  
→主体的な学習
- ・多様な学び方の設定
- ・ICTの有効な活用

○カリキュラム・マネジメント

- ・教科等横断的な単元学習計画
- ・地域を生かした学習（生活・総合・社会等）

<豊かな心（徳）> ～みとめ合う～

「思いやりの心をもって行動する子」

- 「竜の子宣言」の確かな実践
  - ・挨拶運動の推進
- 温かな人間関係づくり
  - ・ソーシャルスキルトレーニング
- 互いのよさの認め合い
  - ・ドラゴン賞の活用
  - ・放送や掲示による称揚
- 縦割り活動
  - ・子供主体の異学年での交流

<健やかな体（体）> ～きたえ合う～

「安全に気を付けて元気に生活する子」

- 主体的・継続的な体力づくり
  - ・体育科授業の充実
  - ・カードの活用（跳び箱・なわとび等）
- 自他の命を大切にす指導
  - ・災害・交通・防犯（自分事として捉える避難訓練・交通教室・防犯教室等）
  - ・危険予知トレーニング
- 生活習慣の見直しと改善
  - ・食育
  - ・SNS、ゲームの利用時間（家庭の協力）

(2)「子供たちに育てたい能力の育成指標」～他者との関係の中で自分を高める竜禅寺の子～

教科・領域を横断して育まれるべき4つの資質能力（浜松市が推進するキャリア教育における基礎的・汎用的能力）の育成については、継続して行っていく。

- 仲間をつくろう（人間関係形成・社会形成能力）
- 自分を高めよう（自己理解・自己管理能力）
- 問題を解決しよう（課題対応能力）
- 夢に近づこう（キャリアプランニング能力）

本年度も「子供たちに育てたい能力の育成指標」を家庭にも配布し、子供、保護者と共有し、共通理解のもと、育成を図っていく。

5 目指す学校

みんなの笑顔があふれる竜禅寺小

みんな＝子供も保護者も教職員も・・・そして地域の方も  
みんなの笑顔があふれる＝「ともに輝く」⇒教育目標と一致

<経営理念> ていねい あったか あんしん

## <具体的な学校の姿>

### ○ 安心・安全で温かい空気が流れる学校

学校が子供たちにとって安心できる場所になるためには、教職員と子供、子供同士の間関係が大切である。教職員と子供、子供同士の信頼関係を構築し、温かな学級をつくる。それが、学年、学校全体に広がり、温かな空気が流れる学校にしていく。それが、いじめの未然防止となる。

友達への心ない言葉や態度が人の心を傷つけ、ときには、いじめにつながるということの指導を丁寧に行うとともに、些細な子供の心の変容に気付くことができるように心掛け、いじめの早期発見・早期対応に努める。

### ○ 多様性を認め合い、一人一人を大切にする学校

外国にルーツをもつ児童が全校の1割程度いる。また、発達支援学級の学級数も増えている。通常学級の中にも学習や運動が得意な子もいれば苦手な子もいる。つまり、学校の中には、多様な子供たちがいる。そのすべての子供たちを誰一人取り残さないよう、個に応じた支援をしていく。そして、互いを認め合う子供の育成にも努めていく。

### ○ 教職員が心身ともに元気、笑顔で働く学校

明るく活力のある学校づくりをするためには、子供と関わる教職員が心身ともに元気で、明るい笑顔で働いていることが大切である。そして、教職員それぞれのよさを発揮するとともに教職員同士も認め合い、「ともに輝く」姿を子供たちに見せていきたい。

そのためには、教職員一人一人が勤務時間を自己管理し、余暇を楽しんだり、学校以外の人とのつながりをもったりする等、ワークライフバランスのとれた生活に心掛けたい。また、困ったときには、一人で抱え込まず、日々の様々な問題に対して情報共有し、学年体制または学校体制で課題解決を図るチームワークを発揮したい。誰一人として教職員が孤立しない学校づくりを目指す。近年は、学校だけでは解決できない事案も発生しているので、SCやSSW、医療機関等外部の専門機関と連携をとり、組織で対応していく。

#### <教職員の姿>

- ☆ 主体的に学び続ける教職員
- ☆ 子供に寄り添い、子供理解に努める教職員
- ☆ 支え合い、高め合う「チーム竜禅寺」

### ○ 家庭・地域と連携・協働し、ともに歩む学校

教職員一人一人が教育公務員であるという自覚を持ち、子供に対する不適切な言動や不祥事の根絶に努め、保護者や地域からの信頼を得ることができるよう力を尽くしていく。

子供の育成には生活基盤である家庭との密な連携・協働が不可欠である。三者面談、教育相談の機会を通して、保護者の声に耳を傾け、真摯に丁寧に対応する。また、日々の連絡や学校だより、学年だより、学校ホームページ(ブログ)、さくら連絡網等を活用して、頑張っている子供の姿を積極的に発信するよう心掛け、保護者との信頼関係づくりに励む。

地域との連携・協働では、設立6年目を迎える学校運営協議会での熟議を充実させ、コミュニティ・スクールを推進する。学校経営方針の熟議と承認のもと、学校と地域が協力し合って教育課題の解決に取り組んでいきたい。

#### ＜教師の心構え＞

#### ☆美点凝視・・・褒めて、伸ばす教育 ←発達支持的生徒指導

- ・どんな小さなことでも子供のよさを見つけて褒める。人は褒められ、認められることで喜びを感じ、やる気になる。そのことが保護者の、教師への信頼となり、学校への信頼となる。

#### ☆子供のために全力を傾ける

##### ＝教育は、情熱と愛情、厳しい中にも温かみのある指導を＝「真心で向き合う」

- ・「子供のために何ができるか」を基本に据えて、常に子供の気持ちを思い、考え、あらゆる教育活動に全力を傾ける。
- ・「子供のためなら、たとえ忙しくても」という気持ちを持って、教師が率先垂範して、先回りの指導（前始末）を心掛ける。
- ・情熱を失わず、決して諦めることなく、粘り強く子供に寄り添う指導を心掛けるとともに、子供との信頼関係を築く。

#### ☆課題意識と見通し、そして柔軟さを持つ

- ・今、目の前にいる子供の実態（家庭環境と生育歴等）をしっかりと把握し、常に課題意識と長期、短期的な見通しをもって指導にあたる。
- ・「今年の子供は」とか「子供がよくないから」ではなく、自分自身の指導はどうであったのか、謙虚に反省し、常に柔軟な考え方をもち指導にあたる。

#### ☆チームワークを大切にする

- ・学級担任一人では、支えられない子供たちが多くいる。「自分一人の力で何とかしよう」という考えではなく、問題の解決に向けて、それぞれの教職員が一人一人、持ち味を出して、組織で対応していく。
- ・学年団では、学年主任、分掌では、各分掌の長を中心に相互に連携を図って、報連相（全教職員）で活動を進めていく。そして、支え合って、のりしろのある仕事を進めていく。

#### ☆心身ともに健康が大事である

#### ☆職場は、助け合い、信頼し合える一つの家族である

- ・職場のよい雰囲気、教職員の活力の源になる。

(様式1)

学校番号 (小・中 008)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立( 竜禅寺小 ) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・学校、家庭、地域が密接に連携し「地域とともにある学校」を目指した熟議を進めよう。
- ・子供たちがリーダーシップを発揮できるような学校づくりを目指して熟議を進めよう。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた  イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった  
(理由)

- ・学校運営の基本方針について内容を理解し、「子供たちに育てたい能力の育成指標」や「竜の子宣言」に基づき、教員と委員の間で活発な意見交換ができた。
- ・写真を見ながら、各学年の教育実践の話を知ることができたので、具体的な活動のイメージがしやすかった。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒  ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった  
(理由)

- ・1年生への給食支援や下校指導など新たなボランティア活動への関わりを通じて学校・地域・家庭の連携が進んだ。
- ・担任と委員が顔を合わせて話げできたので、各学年の課題や取組に早期に支援ができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った  ウ あまり行わなかった エ 行わなかった  
(理由)

- ・ブログやCSだよりで学校運営協議会の様子を発信することができた。
- ・発信自体は行っているものの、それが地域や保護者に十分伝わっているかは分からない。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・学校、家庭、地域の顔が見える関係づくりや、「地域で子育て・地域で教育」を目指した熟議を進めよう。
- ・多様性の時代を生きる子供たちの自己肯定感を高められる教育を目指して熟議を進めよう。

令和8年2月吉日

来賓各位

浜松市立竜禅寺小学校長 谷野 幸代

令和7年度 卒業証書授与式への御案内

立春の候、皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に御支援と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和7年度、第101回卒業証書授与式を下記のとおり挙行いたします。つきましては、御多用のところ誠に恐縮に存じますが、御臨席を賜り卒業生の前途を祝福していただけますよう御案内申し上げます。

なお、会場準備の都合上、御臨席いただけるかどうかをお教えいただきたいと思っております。2月27日(金)までにお電話(Tel.053-452-0683)や、下に必要事項を御記入の上、このままFAX(053-452-0022)にて御連絡いただければ幸いです。

記

- 1 日時 令和8年 3月17日(火)  
受付 午前 8時30分から8時40分  
開式 午前 9時00分  
閉式 午前10時25分(予定)
- 2 式場 浜松市立竜禅寺小学校 体育館
- 3 その他 正面玄関で受付を行います。受付後、2階会議室へ御案内いたします。

担 当	教 頭	平 本	智 之
電 話	4 5 2 - 0 6 8 3		
F A X	4 5 2 - 0 0 2 2		

お役職( ) 御芳名( )

竜禅寺小学校 令和7年度 卒業証書授与式に

※○印をお願いします。

出席します

出席できません

## 地域・保護者ボランティア

### 通年ボランティア

ボランティア名	登録者	対象学年	活動時期等	活動内容
スクールガード	地域(20名)	全学年	通年 下校時	下校時の見守り・パトロール
読み聞かせボランティア	保護者・地域(18名)	全学年	通年(月1回程度) 朝の活動 8:10~8:20	各クラスの教室にて絵本の読み聞かせ
図書ボランティア	地域(5名)	全学年	通年 毎週月曜日 9:30~12:00	本の修理、昼休みに「おはなし会」を実施

### 期間ボランティア

ボランティア名	登録者	対象学年	活動時期等	活動内容
給食ボランティア	地域	1年	4月	給食の配膳・片付けの補助
下校付き添いボランティア	地域	1年	4月	下校時の付き添い
校外学習付き添いボランティア	地域・保護者	2, 3年	各学年の実施時期による	学区内の校外学習の付き添い・安全確保
交通安全教室ボランティア	地域・保護者	1, 2年	5月	歩行訓練での安全確保
ミシンボランティア	保護者	5年	家庭科 ミシン縫いの授業	ミシン縫いの補助
生活科 昔の遊びボランティア	地域	1年	1月	めんこ、けん玉など昔の遊びを教えたり、一緒に遊んだりする
書き初めボランティア	風琳書道教室	3年~6年	12月	書き初め指導
落ち葉拾いボランティア	スポーツ施設利用団体	-	週休日(12月ごろ)	敷地内の落ち葉拾い
防塵剤散布ボランティア	スポーツ施設利用団体	-	週休日(2月ごろ)	運動場の防塵剤散布
クラブ活動	地域	4, 5, 6年	年間5回	各クラブ活動の指導・補助

# 学校運営協議会名簿

## 令和8年度学校運営協議会委員候補

委員	北井 実香(きたい みか) 現3年目 学校支援CD
委員	青島 早苗(あおしま さなえ) 現2年目 来年度継続
委員	寺田 成一(てらだ しげかず) 現6年目 任期満了
委員	松本 直己(まつもと なおき) 現6年目 任期満了
委員	新井 和美(あらい かずよし) 現6年目 学校支援CD
委員	加藤 京子(かとう きょうこ) 現6年目 任期満了
会長	高須 道男(たかす みちお) 現6年目 会長兼学校支援CD
副会長	柳川 春彦(やながわ はるひこ) 現3年目 来年度継続
委員	鈴木 宏幸(すずき ひろゆき) 現3年目 来年度継続
委員	中村 哲也(なかむら てつや) 現1年目 来年度継続
新規	高橋 弘之(たかはし ひろゆき)
新規	石川 敦史(いしかわ あつし)
新規	松井 慎太郎(まつい しんたろう)

# 竜禅寺小学校運営協議会 年間計画

令和8年4月1日～令和9年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和8年 4月24日 金曜日 13:15～14:45 会議室	(1)会長、議長の選出 (2)学校運営の基本方針の確認 (3)いじめ防止基本方針の説明 (4)夢育やらまいかCS加算分についての意見書について	《準備会》 時間:12:45～13:15(校長室) 参加:CSコーディネーター、校長、教頭、教務
2	令和8年 7月23日 木曜日 13:30～15:30 会議室	(1)1学期の学校評価アンケートの考察 (2)各学年の教育実践の紹介 (3)2学期の教育活動の充実に向けて ※学校職員と意見交換	《準備会》 時間:13:00～13:30(校長室) 参加:会長、CSコーディネーター、議長、校長、教頭、教務  ★学校職員の参加
3	令和8年 11月17日 火曜日 14:10～15:10 会議室	(1)授業参観の感想等 (2)教育活動の充実に向けて ※課題とその解決に向けて	《準備会》 時間:13:40～14:10(校長室) 参加:会長、CSコーディネーター、議長、校長、教頭、教務 《授業参観》 時間:13:15～14:00(各教室) 参加:協議会委員
4	令和9年 2月16日 火曜日 14:10～15:40 会議室	(1)2学期末の学校評価と改善策 (2)来年度学校運営の基本方針 (3)学校運営協議会自己評価	《準備会》 時間:13:40～14:10(校長室) 参加:会長、CSコーディネーター、議長、校長、教頭、教務 《授業参観》 時間:13:15～14:00(各教室) 参加:協議会委員  ★学校評価の自己評価、学校関係者評価は、教育総務課へ提出、学校HPへ公開 ★学校運営協議会の自己評価は学校運営協議会会長から教育総務課へ提出、学校HPへ公表 ★夢育やらまいかCS加算分の報告は、意見書、報告書、決算書を教育総務課へ提出

令和8年1月14日

各位

浜松市立竜禅寺小学校  
校長 谷野 幸代

学校運営協議会委員研修会（オンライン）の開催について（御案内）

日頃は、浜松市の教育に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、学校運営協議会委員及び来年度新規委員候補となる方等を対象に、下記のとおり研修会を開催いたします。御都合のつく方はぜひ御参加をお願いいたします。

記

- 1 目的 学校運営協議会委員のコミュニティ・スクールに対する理解を深め、学校と地域が連携・協働しながら子供たちを育む意識を高める。
- 2 日時 令和8年2月25日（水） 午後2時から午後3時30分
- 3 会場 浜松市立竜禅寺小学校 会議室
- 4 方法 オンライン受講（Zoomによるライブ配信）
- 5 対象者 学校運営協議会委員・来年度新規委員候補者等
- 6 内容
  - (1) 趣旨説明 浜松市教育委員会 学校・地域連携課 地域連携グループ
  - (2) 講 話 「学校運営協議会の活用と学校課題の解決」  
講 師 文部科学省CSマイスター、ふくしま学校と地域の未来研究所 安齋 宏之 氏  
概 要 ・学校運営協議会の役割と仕組  
・学校・地域が協働する取組事例の紹介 等
- 7 その他
  - (1) 2月17日（火）までに、別紙【出欠票】を学校へ御提出ください。  
(第4回学校運営協議会の当日で構いません。)
  - (2) 筆記用具を御準備ください。
  - (3) 当日の資料は、会場にてお渡しします。
  - (4) 本件に関して御不明な点がございましたら、担当まで御連絡ください。

浜松市立竜禅寺小学校 担当 平本 智之 電話 053-452-0683 FAX 053-452-0022
---

メモ

